

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エントランス棟	階数	地上3階
建設地	岡崎市大幡町字大入1-1の一部 他	構造	S造
用途地域	工業専用地域/防火地域指定なし	平均居住人員	268 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,952 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2014年9月1日
敷地面積	11,008.91 m ²	作成者	大平英志
建築面積	898.23 m ²	確認日	2014年9月1日
延床面積	2,146.32 m ²	確認者	高橋幸



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・材料

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.0

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>52.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1	室内騒音レベル		機器騒音レベルを45dB以下とした。	4.0	0.40					3.7
2	設備騒音対策			4.0	1.00	1.0				3.7
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能		遮音性能T-2以上とした。	3.8	0.40					
2	界壁遮音性能			5.0	0.60	3.0				
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			2.0	0.40					
4	界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音										
				3.0	0.20					
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温			4.2	0.50					3.6
2	負荷変動・追従制御性			3.0	0.38	3.0				
3	外皮性能		外壁サンドイッチパネルt=25 U=0.803	5.0	0.25	3.0				
4	ゾーン別制御性		ペリメータとインテリア別に空調システムをもち、細かな空調ゾーン	5.0	0.38					
5	湿度・湿度制御									
6	個別制御									
7	稼働時間変動に対する対応									
8	監視システム									
2.2 湿度制御										
				3.0	0.20					
2.3 空調方式										
				3.0	0.30					
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1	昼光率		昼光率2.5%以上とした。	4.6	0.30					3.4
2	方位別開口			5.0	0.60					
3	昼光利用設備		会議室部分に採光ブラインドを採用。	4.0	0.40					
3.2 グレア対策										
1	照明器具のグレア			3.0	0.30					
2	昼光制御									
3	視覚的対策									
3.3 照度										
				3.0	0.15					
3.4 照明制御										
				3.0	0.25					
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面使用。	5.0	1.00					4.4
2	揮発性有機化合物									
3	ホルムアルデヒド									
4	放射性物質									
4.2 換気										
1	換気量		基準を満たしている	3.3	0.30					
2	自然換気性能			4.0	0.33					
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.33					
4	給気計画									
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視		空気質を維持するための管理マニュアルが整備・機能している。	4.5	0.20					
2	喫煙の制御		1階喫煙室以外は禁煙とし、喫煙室の排気は直接外へ排出。	4.0	0.50					
				5.0	0.50					
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性		組合事務所(従業員2人) 1人当たりの執務スペース34.75㎡	3.8	0.40					3.8
2	高度情報通信設備対応			3.0	0.40					
3	バリアフリー計画			5.0	0.33					
4				1.0	0.33					
5				3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観		組合事務所 天井高さ:3000	4.3	0.30					
2	リフレッシュスペース			5.0	0.33					
3	内装計画		カラースキームを実施	3.0	0.33					
4				5.0	0.33					
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計		外部露出鉄部は垂鉛メッキ処理としている。	4.5	0.30					
2	維持管理用機能の確保		フロア毎に掃除用流しを設置している。	5.0	0.50					
3	維持管理業務			4.0	0.50					
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性			3.4	0.31					3.4
2	免震・制振性能			3.0	0.48					
3				3.0	0.80					
4				3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数			3.6	0.33					
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.0	0.23					
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.23					
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		天井に化粧石膏ボードを採用(耐用年数30年)	5.0	0.09					
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		ダクトの長寿命化を図っている。	5.0	0.08					
6	主要設備機器の更新必要間隔		2種類以上にB以上を仕様し、Eは不使用としている。	5.0	0.15					
				3.0	0.23					

2.4 信頼性				4.0	0.19				
1	空調・換気設備		②	空調換気設備の重要度に応じて系統を区分している。	5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			中継槽を設置。	4.0	0.20			
3	電気設備			非常用発電機設備を備えている。	4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備			通信手段の多様化を図っている。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.9	0.29				3.9
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31				
1	階高のゆとり			階高3.900m	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比0.182	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				4.2	0.38				
1	空調配管の更新性		②	仕上げ材を痛めることなく更新修繕が容易にできる。	4.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			構造部材・仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる。	5.0	0.11			
4	通信配線の更新性			仕上材を痛めることなく更新・修繕ができる。	5.0	0.11			
5	設備機器の更新性			更新・修繕時に建物機能を維持できる。	5.0	0.22			
6	バックアップスペース			バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保。	4.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				3.7
1 生物環境の保全と創出		●	③	出来る限り緑地を残し、自然保存に努めている。	4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	西側緑地を残し、外壁は灰色とし、町並み調和を図っている。	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-				4.2
LR1 エネルギー				-	0.40				4.6
1 建物の熱負荷抑制				PAL低減率=66%	5.0	0.30			5.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				採光ブラインドを採用	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用					3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				ERR=30.8%	4.7	0.30			4.7
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=30.8%	4.0				
集合住宅の評価									
4 効率的運用					5.0	0.20			5.0
4.1 モニタリング				システム効率の評価を行い、システムの性能の評価が行える。	5.0	0.50			
4.2 運用管理体制				年間エネルギー消費量の目標値が計画されている。	5.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.8
1 水資源保護					3.6	0.15			3.6
1.1 節水				節水コマに加え、省水型機器を用いている。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.3	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				W0便器洗浄水に雑排水を利用している。	4.0	0.33			
2 非再生性資源の使用削減					3.7	0.63			3.7
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			②		3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				再生骨材路盤材:基礎下、再生骨材盛土:土間下	3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●			4.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		躯体と仕上材が分離可能で設備も取り外すことが可能。	5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.3	0.22			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				化学物質排出把握管理促進法対象物質を含有しない建材4つ。	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68			
1 消火剤					-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				使用発泡剤 GWP:3 ODP:0	5.0	0.50			
3 冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30				4.0
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建築(参考値)と同等。	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮					4.2	0.33			4.2
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を全く発生しなし。	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				近くの気象台データを用いて卓越風の風環境を把握している。	4.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					4.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●		沈砂池にて泥水撤去。	4.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制		●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		適切な駐輪場、駐車場の確保。	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				ゴミの種類や量を推計している。	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.9	0.33			3.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					4.3	0.40			
1 騒音		●		現行の基準値-10dB以下に抑えられている。	5.0	0.33			
2 振動		●		現行の基準値-5dB以下に抑えられている。	5.0	0.33			
3 悪臭					3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.3	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					-	-			
3 日照障害の抑制				日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている。	4.0	0.30			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				光害対策ガイドラインのチェックリスト過半を満たしている。	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

重点項目スコアシート
エントランス棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち(2011年度版)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011v.1.3_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保と建物長寿命化を目指す。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 将来の可変性の向上とメンテナンスフリーを目指す。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 既存建物との調和と、周辺町並みや景観に対する取組みを行う。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱性能の強化と設備システムの効率化を図る。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に対して十分な対策をとる。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。